

[課程-2]

審査の結果の要旨

氏名 涌井 智子

本研究は、16の介護保険者ごとに無作為抽出した家族介護者の介護状況と精神的健康を把握し、我が国の在宅介護者の介護負担感および抑うつ度に影響する「地域の介護支援環境」の影響を、要介護高齢者と介護者の続柄別に、明らかにすることを試みたものであり、下記の知見を得た。

1. 介護者の続柄によって介護の状況が異なり、息子介護者では経済状態が低く、別居での介護が多いこと、嫁介護者では認知症状を有する要介護者の介護が多いといった違いが確認された。また、特に配偶者では、介護負担感が有意に高く、抑うつ傾向にあることが確認された。
2. 家族介護者の精神的健康における地域間分散は小さく、要介護者のADL、認知症状の有無、介護者の経済状況と主観的健康度を調整することによって地域間分散は小さくなり、個人要因を調整することによって地域間分散が説明されたと考えられた。
3. 地域間分散は小さい一方で、介護者の精神的健康に影響を与える地域の介護支援環境が明らかになり、また、その影響は続柄によって異なることが明らかとなった。
4. 息子介護者の場合、地域の介護保険外支援や介護者支援が充実している地域で介護負担感が低くなっていた。一方、介護保険サービスについては、介護者が、介護保険サービスが充実していると評価する地域で介護負担感が低くなっており、このことから、介護保険サービス資源よりも介護者が充実していると認めるニーズに合った介護保険サービス、および私的介護支援環境充実の必要性が認められた。
5. 娘や嫁介護者では、介護保険サービス資源が抑うつ度の軽減に関連しており、介護保険サービス資源が重要と考えられた。その一方で、ソーシャルキャピタルや介護保険外支援の充実といった私的支援環境は、嫁介護者の介護負担感や抑うつ度を悪化させる傾向が見られ、続柄によって地域の支援環境の影響が異なることが確認された。
6. 以上のことから、介護負担感や抑うつ度に関連する個人の関連要因も重要だが、保険者単位での介護支援環境を充実させることは、介護者への重要な支援の方法であり、続柄のように把握しやすい介護者の特性に即して保険者単位での支援配分を考えることは効率的な支援配分であることが確認された。

以上、本研究は、16の異なる保険者の介護状況及び介護者の精神的健康を把握したことで、地域環境の影響を検討することが可能になり、本邦初の貴重なデータを得た。各保険者の

介護の特性に沿って保険者ごとに地域の支援環境を充実させることが、保険者にとって効率的な支援配分の一つの方法になることが示唆された本研究知見は、超高齢社会の介護システムを考える上で重要と考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。